

公益社団法人 横浜市幼稚園協会発行  
〒221-0055  
横浜市神奈川区大野町1-25  
横浜ポートサイドプレイス アネックス5F  
電話 045 (534) 8708  
http://www.kids-yokohama.or.jp  
編集 横浜市幼稚園協会広報部  
発行者 木元 茂  
印刷所 合資会社横浜大気堂

# 協会報 浜私幼

一般版

No.263

- ▼平成27年度幼稚園大会開催
- ▼第1回 教員研修会
- ▼夏季研修会
- ▼幼保小連携の活動について
- ▼絵本の散歩道



## 平成27年度 横浜市幼稚園大会開催 めざそう豊かな心 明るい未来 ありがとう子どもの笑顔 地域の和



柏崎誠横浜市副市長



木元茂会長

平成27年度横浜市幼稚園大会が、6月24日(水)に横浜市文化体育館で、多数のご来賓の皆さまご臨席のもと開催された。当日は汗ばむ陽気の中、参加者が早くから会場前に集まり、開会時にはたくさんの幼稚園教職員、保護者、園児で会場は熱気に包まれた。定刻午後3時、真紅の緞帳が上がり開幕した。

舞台中央の金屏風の前には横浜市長様、横浜市会議長様より贈られたお祝いの生花がそれぞれ飾られ、壇上には、向って右側に横浜市副市長、横浜市会議長、市会各党団長、行政関係者、養成校の代表者など多数の来賓の方々が着席され、左側には横浜市幼稚園協会会長をはじめ協会関係者が着席し、大会の進行を見守った。

まず羽田哲副会長が本年度のテーマ『めざそう豊かな心 明るい未来 ありがとう子どもの笑顔 地域の

和』にふれ「新制度に移行した園もそうでない園も、幼児教育・保育に関わる皆さんの、子どもの笑顔のために頑張る気持ちは同じである。皆さんと力を合わせ、子ども達の明るい未来、豊かな心を作っていく」と話し、開会を宣言した。この後、参加者全員が起立して国歌、横浜市歌を斉唱し、式典がスタートした。

最初に挨拶に立った木元茂横浜幼稚園協会会長は、まず大会開催の喜びと感謝の気持ちを表し、続いて永年勤続表彰受賞者へお祝いの言葉を述べた後、子ども子育て支援新制度にふれ「これは市民の皆さんへの教育・保育サービスであり、消費税を財源とした7000億円の投資は、よい意味での変化をもたらす可能性を持っている。これは先生方の定着率にもよく影響するだろう。教育・保育への公的投資の拡大である新制度

を多くの園が活用し、さらなる拡充の議論に参加していただきたい。本日受賞の先生方には、豊かな経験を自園のみならず、幼稚園協会主催の研修会などで広く後輩の皆さんのために活かしていただきたい」と挨拶した。

続いて渡邊かほり父母の会連合会会長が挨拶に立ち、受賞者へお祝いの言葉に続き、幼稚園協会、父母の会連合会の活動についてふれ、私立幼稚園就園奨励補助金制度等の堅持と拡充のための活動や父母セミナーの開催などに取り組んで行くと述べた。また、「協会や各支部で実施されているセミナーや講習会に先生方が参加されていることを今回知り、後々の人間形成に大きな影響を与える幼稚園での日々が、先生方のごこうした日々の努力、日々の勉強に支えられている」と感謝の言葉があった。さらに「私たち母親は、今一度、



佐藤祐文市会議員



渡邊かほり父母の会連合会会長



米崎智子父母の会連合会副会長による大会宣言

母親になれた喜びに、家族と過ごせる毎日に、そして子ども達を見守ってくださる先生方や周囲の方々への感謝の気持ちを持ちましょう。私たち大人は、子どもが与えてくれるかけがえのないパワーに感謝しながら過ごしましょう。みんなが周囲への感謝の気持ちを持ちながら、感謝の気持ちを表しながら過ごすことがこれからの明るい未来につながると信じています」と力強くお話しになった。

この後、教職員の方々の永年勤続表彰が行われた。まず勤続20年、15年、10年、5年の順に登壇し、木元茂会長からそれぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。続いて、勤続40年、35年、30年、25年の節目を迎えた教職員の方々の表彰が行われ、それぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。今年は総勢369名の教職員が長年幼児教育に貢献した功績をたたえ表彰された。

さらに勤続20年、15年の教職員の方々に対しては横浜市長表彰が行われ、柏崎誠横浜副市長から代表者に表彰状と記念品が授与された。

次に、来賓の方々からお祝いの言葉をいただいた。

まず、柏崎誠横浜副市長が挨拶

に立ち、永年勤続表彰受賞の先生方へ「長きにわたり、子ども達一人ひとりに寄り添い、人格形成の礎となる幼児教育の実践に力を尽くしてこられました。改め深く敬意を表します」と祝辞を述べられた。そして、「子ども達は幼稚園・認定こども園での初めての集団生活で、生きるために必要なことを学んでいきます」と幼児教育の重要性を説かれ、「ここにいる経験豊富な先生方のご努力が横浜における質の高い幼児教育を支えてくださっています」とお話しされた。続いて子ども・子育て支援新制度への協力のお礼、また多くの園が新制度に移ることへの期待、「幼保小連携」「預かり保育事業」などの関連事業への感謝とさらなる協力をお願いしたいと述べられた。

続いて、挨拶された佐藤祐文横浜市長は受賞者への祝辞に続き、「幼児期は人間形成の基礎が培われる大切な時期であり、幼稚園の果たす役割は子どもの未来にとってきわめて重要である。長きにわたり熱心に幼児教育に取り組みに来て皆様には引き続きその情熱と経験を存分に発揮し、次代を担う子ども達の育成にご尽力いただきたい。横浜市会

としても皆様のご意見を伺いながら、精一杯支援させていただきたい」と述べられた。

そして、来賓紹介が行われた後、平成26年度父母の会連合会役員の方々へ感謝状の贈呈が行われ、役員5名を代表して杉本周子前父母の会連合会会長に木元茂会長から感謝状が手渡された。

続いて、米崎智子横浜市幼稚園父母の会連合会副会長から、大会宣言案が読み上げられ、満場一致で大会宣言が採択された。そして、この大会宣言は、後日横浜市及び横浜市議会に届けられることになった。

最後に、永年勤続表彰を受けた教職員を代表して山口理絵先生が、「多くの人々の支えがあってここまでやって来られた。環境の変化の著しい今だからこそ、未来を担う子ども達に関わる仕事という誇りを持ち続けたい」と謝辞を述べた。

以上で式典はすべて終了し、参加者全員で幼稚園讃歌を斉唱した後、山崎和子副会長が閉会の辞を述べて、午後4時40分に横浜市幼稚園大会を閉幕した。



山口理絵先生より謝辞



## 第1回 教員研修会報告

平成27年5月20日 (水)

### 第1分科会

◆ テーマ: **園内でもっと活発に保育や子どもの話をしてみませんか**  
～話し合うことから見えてくる保育の質を高める工夫～

◆ 講 師: 大妻女子大学 家政学部児童学科教授 岡 健 先生

◆ 会 場: 横浜市開港記念会館

第1分科会では、まず園内研修で若い先生たちも意見を出し、活発に話し合えるようにするために必要な「仕掛け」について具体的にうかがった。そして、3園の先生方が登壇し、写真を用いたクラスのおたよりを題材に模擬園内研修を行った。子どもたちの本当の姿を、単なる思い込みからではなく、本当にそうなのかと突っ込んできちんと話し合っただけで捉える環境を作ることが保育の質を高めることにつながるというようにまとめられた。

(広報部 安藤 宗博)



### 第2分科会

◆ テーマ: **マジックと音楽と絵本のセミナー**  
～こどもの世界を彩る3つの魔法

◆ 講 師: ミュージシャン&マジシャン 大友 剛 先生

◆ 会 場: 鶴見公会堂

第2分科会は年齢を問わず楽しめる三つの題材をテーマとしたセミナーが行われた。冒頭、手品を交えた自己紹介で会場とステージの距離を一気に縮めると、『マジック』では定番から錯視を利用したものまで直ぐに実践できる手品の紹介があり、『音楽』では鍵盤ハーモニカ2台による一人アンサンブルが披露された。また『絵本』では話題の絵本“ねこのピート”の紹介と歌って楽しむという手法も紹介して頂いた。そして感動の即興演奏と共に幕を閉じた。

(広報部 志田 元)



### 第3分科会

◆ テーマ: **絵本はライブ !!**

◆ 講 師: 絵本・児童書の専門店「えほん館」館長 花田 睦子 先生

◆ 会 場: 横浜市教育会館

講師には京都にある「えほん館」の館長、花田睦子先生をお迎えした。花田先生は「絵本は一人で読む本ではない、絵本は人に読んでもらうものである。2人以上の読み手と聞き手がライブをしているように楽しむ本であり、子育てをするうえで有効なツールとなり、その道具の使い手はボロボロになるまで使いきってほしい。本棚にきれいにしまっておくものではありません! 絵本を読んでもらっている幸せな時間、楽しい時間は一生消えることのない親子の時間として子ども達の心に沁みこんでいきます」と話され、野菜の絵本を使っての楽しいライブ講演会となった。(広報部 内藤 光雄)



## 平成27年度 横浜市幼稚園新規採用教員夏季研修会

新規採用の教員の指導力の向上をめざし、新規採用教員研修会を毎年5月、8月に開催している。5月には昨年度新卒で教員になった一年目の先生方の体験談と、聖徳大学・同教職大学院兼任講師の赤坂榮先生の講演が行われた。そして8月には、6日・7日の2日間にわたり夏季研修会を行った。

8月6日(10:00~16:00)の全体会では、「今、伝えたい私の保育」をテーマに先輩先生3人のシンポジウムがあり、午後からは1グループ7~8人に分かれてのグループディスカッションを行い、一学期の保育を振り返りながら子ども理解や教師としての学びを深める機会となった。

7日(10:00~16:00)は「リズム」「身体表現」「造形」「自然」の科目に分かれ実技研修を行った。

夏休み中の2日間にわたり346名の新任の先生方が一堂に会し、今後に向けて励みとなる充実した研修会となった。

### リズム

講師：永岡 和歌子先生(浜松学院大学短期大学 准教授)

音楽遊びのアイデアを学び、レパートリーを広げバリエーションの可能性を知る楽しい研修となった。



### 身体表現

講師：大潤 弘幸先生  
(劇団風の子・国際児童演劇研究所 講師)

実際に遊び、「遊び」の中から表現すること・他者とコミュニケーションすることの楽しさや、難しさを発見する研修となった。



### 造形

講師：村田 修治先生(ワークショップ講師)

造形活動をするうえで大切なのは自分を知り、他者を知ること、人とのつながりの中で共感する感性を持つことや、その場を共有する楽しさを知ることだと学んだ。また、子ども達は人とのかかわりによって大きく成長していくという造形活動の視点を、各々が実際体験することで研修を深めた。



### 自然

講師：佐々木 洋先生(プロ・ナチュラリスト)

身近に見ることのできる自然物・生き物、注意が必要な生き物について学び、午後からは実際に戸外に出て街中での自然に触れ、自然観察を行った。



## 幼保小連携の活動について

上飯田幼稚園 園長 内藤 光雄

幼保小連携事業は横浜市内18区全ての小学校区を単位ブロックとした幼稚園、保育園、認定こども園、小学校、特別支援学校が連携協働していく事業です。平成27年度は市内で36地区、116の幼稚園・保育園と小学校が幼保小連携推進地区として取り組んでいます。活動の大きなテーマは幼稚園・保育園から小学校へとその生活環境が変化し、成長していく子ども達の育ちに関わる教職員同士がまずはつながり、子どもの育ちと学びにつなげていくことです。

平成27年度は昨年に引き続き、全体テーマを「『学びの基礎力』の育成をとおして、育ちと学びをつなぐ」とし、各区・各地区毎のテーマは幼保小の担当者が集まって検討し決定しています。幼稚園・保育園で積み重ねてきた生活体験を小学校へとうまく接続することは、育ちと学びの連続性・一貫性を図る保育教育の充実が求められ、子ども達が成人に至るまで影響していきます。

泉区のある地区が行った交流体験では「秋の落ち葉で遊ぼう」のテーマで、幼保の年長児が小学校の校庭に集まり、小学校の先生が活動をリードし幼保の担任が補助で関わりました。小学校の先生の「皆さん集まってください」との呼びかけに、落ち葉を集めてベッドにして寝転んでいた園児は起きあがろうとします。その様子に幼稚園の先生が「じゃ、目が覚めたら皆の所に来てね、待っているから」と言葉をかけると、その子にはにこにこしながらすぐに起き上がり集合しました。それを見ていた小学校の先生は“園児の心に寄り添う言葉かけはとても参考になりました”と話され、幼保と小学校の先生同士で子どもへの声掛けの仕方について共有する機会となりました。

また、4月には幼稚園の先生が参加する、

新1年生の授業参観が行われました。まだ小学校に慣れていない時期であるためか、親しみのある幼稚園の元担任に会い嬉しそうな笑顔をうかべていました。子ども達にとっても、幼稚園の先生にとっても卒園後もつながっている安心感を持った参観となりました。

子ども達は保育園、幼稚園、小学校でいろいろな体験を積み重ね成長していきます。この子達には幼保小のそれぞれの立場に関わる教職員が連携し、教職員同士お互い顔の見える関係を基本に協働することで、一人ひとりの園児が卒園から入学その後の小学校生活へのスムーズな接続につながるように今後も継続した活動をしていくことが求められています。



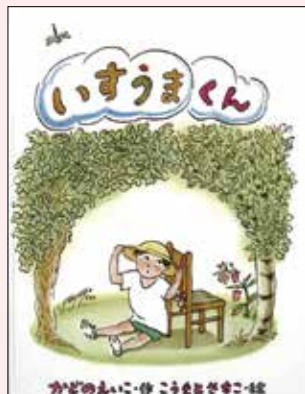
小学校の先生に絵本を読んでもらう年長児

## 絵本の散歩道

横浜市幼稚園協会ホームページより

### 『いすうまくん』

かどのえいこ／作  
こうもとさちこ／絵  
福音館書店



子どもの頃、夏休みに祖父家宅に行くのを心待ちにしていたことを今も鮮明に覚えています。

でも、私の祖父の家は東京で、田舎というよりも近所に遊びに行く感覚だったので、この絵本を読んだときに、タックンがとてもうらやましく思いました。

挿し絵の、木々に囲まれた一軒家。薄暗い物置。その中で見つけた、お父さんの使っていた麦わら帽子と『いすうまくん』お父さんの幼少期に体験したことを、自分も体験する。しかも周りを見渡すと、たくさんのおともたちが自分と同じ体験をしている。

本来、椅子はすわるもの。そして、動かないもの。その固定概念を払拭する展開に、自分もタックンのように『いすうまくん』と空を飛んでみたいと思いました。

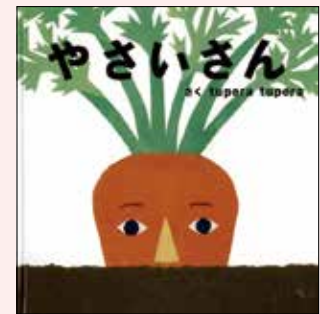
最後に、タックンがお父さんに今おきた出来事を話そうとすると、お父さんがにやっと笑い、「きみもあそこにいったんだね」と一言。お父さんとタックンが、共通の秘密をもったことの嬉しさ・楽しさに、保育者として子どもの思いを共有することの大切さを改めて感じました。

『いすうまくん』をとおして、子どもの頃にみた夢や希望を思い返してみたいはかがでしょうか？



### 『やさいさん』

tupera tupera / 作  
学研教育出版



この絵本の作者であるtupera tuperaとは、その名前とちよっぴり不気味でシュールな絵

柄から一体どこの国の人なのかと思いますが、実は亀山達也さんと中川敦子さんという日本人二人組によるユニットです。絵本を始め、アニメーション、雑貨、ワークショップなど様々な分野で活動しています。

『やさいさん』のお話の舞台は野菜畑。土の中ですくすく育った根菜たちがかくれんぼして、葉っぱとその野菜の頭が少しだけ見えています。何が出てくるか……収穫してみましょう！

「やさいさん やさいさんだあれ」という問いかけに対し、隣のページでかくれんぼしている野菜の仕掛けを上をめくります。すると……「すっぱーん ●●さん」と、勢いよくにんじんや玉ねぎなど色々な野菜が飛び出します!! 野菜以外のものが登場するのも、変化があって面白いです。

新学期、年少児向けに読み聞かせても子どもが自分で見ても喜ぶ絵本を探していて手に取った絵本です。「すっぱーん」という場面では皆で野菜に変身し、ジャンプして楽しむのがお決まりです。

更に驚いたのは、繰り返し読んでみると、葉っぱを見ただけで何の野菜なのか子どもたちが覚えてしまったことです。スーパーにきれいに並んだ姿や調理済みの姿のみ知っていて、そこに当たり前にあるものとなってしまう、その野菜の育ち方や育てた人の存在を知らずにいる事って多いのではないのでしょうか？

そんな子どもたちが絵本を楽しみながら興味を持つことでそこから食卓に結び付いてちょっと食べてみようかな、という気持ちに繋がると素敵ですね。

### 編集後記

今年は、火山の噴火や竜巻発生、大雨洪水被害が報じられ、8月末には急に気温が下がり10月の肌寒さになるという尋常でない夏休みでした。農作物の収穫も気になるころです。

さて、皆様はどんな夏休みをお過ごしでしたでしょうか。幼稚園は始まったとたん、“おばあちゃんに会えた話や家族で旅行に出掛けた話”など、充実したお休みの話でもちきりでした。元気を充填した先生たちも2学期を楽しみにしています。ぐっと成長する子ども達を感じられる学期ですから、保育者と保護者が今まで以上に力を合わせ、軽やかに歩んでいきましょう。

(広報部 浅沼 郁子)